

令和4年度第3回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会

(議事録)

日 時 令和5年3月20日(月) 15時～17時

場 所 石狩市役所301会議室(※委員はオンライン参加)

◇出席者

<委員>

松島 肇 (会長) (北海道大学)

長谷川 理 (副会長) (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)

立木 靖之 (酪農学園大学環境共生学類准教授)

安細 元啓 ((株)野生生物総合研究所)

赤坂 猛 (一般社団法人エゾシカ協会理事)

徳田 龍弘 (北海道爬虫両棲類研究会副会長)

<事務局>

環境市民部 環境課

時崎 宗男 (課長)

中野 康男 (主査)

高橋 恵美 (主任)

<委託者>

工藤 知美 (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)

【事務局】

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第3回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会を開催します。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会の事務局の石狩市環境市民部環境課 主査の中野と申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

委員の皆さまにおかれましては、今回オンラインでの開催となり、電子機器の不調等により、ご迷惑をお掛けする場面もあろうかとは思いますが、その際はどうかご容赦下さいませようをお願いいたします。議事録作成のため本会議は録画させていただいております。それでは、以降の議事進行につきましては、松島会長をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

松島会長が電子機器の不具合のため、議事進行を事務局で実施します。資料について Excel ファイルが1部、PDF ファイルが1部お手元にありますでしょうか。

議題1については Excel ファイルをご覧ください。保護センター運営員会、環境審議会、2月に開催した市民向けのイベント「いしかり生きものかけはし座談会」、WEB を使って実施しているアンケートの結果についてまとめてあります。

—資料・アンケートフォームについて省略—

【松島会長】

ありがとうございます。座談会の参加人数は何名ですか。

【事務局】

定員 15 名で、15 名の申込で当日欠席 1 名です。

【長谷川委員】

参加者の所在や内訳についてはどうですか。

【事務局】

10 人程度が石狩市花川在住で、その他は札幌市です。

【長谷川委員】

WEB アンケートについても内訳はどうですか。

【事務局】

24 人の回答中、半数は札幌です。半数の中で、1 名が浜益で他は石狩市街地の方です。年齢は 30 代より上で、石狩浜周辺の自然環境について認識が偏っている印象です。

【長谷川委員】

できればもう少し、浜益・厚田の情報や意見が欲しい。自然環境調査業務の時に地元の方に伺ったが、南部の内容に偏る可能性があるため、企画がいいのか、個人的に相談に乗ってもらうなど、漏れなく情報を取り込めるように考えたほうがよい。

【松島会長】

座談会を浜益でもやった方がいいかもしれないですね。

【事務局】

コロナ緩和後の計画として検討します。

【松島会長】

次に、議題（2）意見を踏まえた骨子案について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

—資料説明—

補足

- ・ 全体の文章文言等の細かい修正
- ・ 下の語句説明についてはまだ変更途中であるため、数字のラベリングが未完成
- ・ 語句の説明については未完成
- ・ 第 1 章については背景の部分必要かどうか

・第2章の石狩市の現状や課題を、第2章で石狩市のプロフィール、第3章で現状と課題に分ける

- ・第5章に変更になった施策と対応する形で第3章を整理
- ・環境審議会で見解のあったタンチョウについて、今後考えられる事例として追記
- ・第5章
P29 727 厚田里山再生の会 厚田町→厚田区
P29 732 四季彩の森をつくる会 →削除
- ・第6章は石狩市を主語で今後修正

【松島会長】

ありがとうございます。先に質問です。環境審議会の中で、企業の関わりを具体的に書いてほしいという話の対応についてはどうでしょうか。

【事務局】

5.6に記載のあるCSR活動などを考えています。

【松島会長】

企業が生物多様性に協力することで、どんなメリットがあるのかが重要ではないかと思う。TNFDなど企業が参加することで投資価値が上がるようなメリットが提示できないかというご意見だったと思います。国も検討段階なので、書き込みは難しいと思いますが、あってもいいかなと思います。

【事務局】

環境課全体として、担当をまたぎながら事業を進めたいと思います。どういったことが、生物多様性に貢献するのかという導入部分も企業の方に必要なのかもしれませんが。

【松島会長】

TCFDやTNFDも少し入れられると、いいかなと感想です。

【長谷川委員】

タンチョウについて審議会の見解のことを教えてください。

【事務局】

前回までの骨子案で5.4の部分にタンチョウという語句を入れていたため、石狩市ではタンチョウとの軋轢があるように見えるので不適ではないかというご意見をいただきました。今回は、3.4で今後起きうる課題ということで事前に説明しました。

【長谷川委員】

そもそも軋轢のところに書くのではなくて、注目種に入れてもいいかと思います。鶴居村とか道東の話ならともかく、北海道としてタンチョウは分散してほしい種だと思います。国交省の取り組みも石狩川の流域にタンチョウが住める場所を再生していこうとか、舞鶴とか、長沼も基本的に希少種の扱いで生息地を広げて守っていく保護対象種。なので、軋轢ではなく注目種に書いたほうが適切かと思います。

【赤坂委員】

長谷川委員の意見と関連です。14 ページは野生動物との軋轢の現状と課題となっていますので、やはり今、石狩市が抱えている野生動物のさまざまな軋轢問題を書くのが筋だと思います。違和感を覚えます。

はい、ありがとうございます。

【松島会長】

むしろ軋轢としてアライグマなんかを書いたほうがという気がします。

【赤坂委員】

関連して、野生動物との軋轢は大きな問題だと思います。そういった意味で、市が抱える野生動物との軋轢の現状を書いていただきたいなと思います。例えば、エゾシカのデータと同じように、ヒグマの農業被害や交通事故問題があるならば良いかと思います。

【事務局】

現状っていう部分も踏まえると、タンチョウの話は未来の話になっていると思いました。ヒグマのデータについては農林水産業関連で情報がないか、もう一回探してみたいと思います。

【松島会長】

未来の可能性については、かなり先の話かもしれないので、それよりは今、現状として起こっていることを上げておく方が良いのではと思います。

【徳田委員】

写真にキャプションが入っていると優しいのかなと思って見ていました。

【事務局】

キャプションを追加します。

【松島会長】

14 ページで、エゾシカヒグマときて、ここはキタキツネじゃなくて良いですかね

【事務局】

合わせて修正します。

【松島会長】

後は 20 ページの目指す姿はこれ 2040 年でしょうか。

【事務局】

2040 年の間違いです。

【長谷川委員】

注目種に希少種ではない種は何が入っていましたか。

【事務局】

想定として、ハマボウフウがあります。石狩浜の保護地区を作った理由は、ハマボウフウの採り過ぎが原因の一つです。絶滅危惧種には指定されていないと思いますが、市として注目して見ていく種として今後は追加したほうがと考えています。

【長谷川委員】

細かく書くのはリストとかで、いいかと思いました。ハマボウフウは地域個体群としての残存が危ぶまれる種などみたいところで、注目種にしてくるってことですね。

ほぼ希少種や絶滅危惧種であれば、注目種という名前ではなくていいのかとシンプルかと思いました。

【安細委員】

昆虫のデータに関する件はアクションプランについてよろしいでしょうか。

【事務局】

間違いありません。それに伴って、環境審議会ではレッドリストに関しては要望が出ています。

【松島会長】

レッドリストが必要であるという話で、かけはしプランとは別であると思っています。まずはデータを集めて希少種なり注目書を選定という話じゃないかなと認識しています。別立てで、レッドリストはつくっていく方向で考えてはどうかというご指摘だと思いました。

【事務局】

まずは情報が足りてないという部分が課題にあるので、その点についてはかけはしプランで明記していこうと思います。

【安細委員】

注目種のおオムラサキ・シロマダラ・アカモズは上から順に浜益・厚田・石狩浜ということで選んでいるのでしょうか。地区ごとのシンボルになっている気がするので、具体的に取り上げてでもいいのかもしれないなと思いました。

【松島会長】

具体的に取り上げるというご指摘は、例えばそれぞれのページみたいなのを作って、ちょっと紹介するような形でしょうか。

【安細委員】

アカモズに関しては、南側の人が住んでいる所にいるし、浜益・厚田はその区のシンボルのように意図があるのかなと思ひまして。

【事務局】

偶然その並びになっていますが、言われてみたらその場所のシンボルみたいになっていますね。オオムラサキは特に昔から町のシンボルですし。

【松島会長】

例えばシロマダラのところで、説明の最後の行に石狩市では 2011 年に生体が発見されており…ってというのは、厚田区になりますか。

【事務局】

そうですね。その当時、徳田委員も現場にいらっしやったのですよね。

【徳田委員】

そうですね。2011年に初めて厚田区で見つかっていますね。

【松島会長】

場所を具体的にどこまで書くかっていう話もありますね。

【事務局】

生息している場所自体が旧トンネルの横で、本来はあんまり入るのは望ましくありませんけど、入ろうと思えば多分誰でも入ることができる場所なので危惧しています。コンスタントに確認できているっていうところで、なかなかない場所です。

【徳田委員】

絶えずに去年も確認されているのでわりと安定した生息地なのかなという予想の範囲ですね。

【事務局】

石狩の中でもシロマダラに関しては隠して来たっていう感じの動物ではあります。こういった情報はどこまで出しても良いレベルなのかはいつも悩みどころです。

【松島会長】

植物や鳥、チョウは人が見に行ったり、取りに行ったりしますが、ヘビはどうでしょうか。

【徳田委員】

マニアックな人が来て、ちょっと前だとネットで販売できたりもしたので。今は爬虫類をネットで販売できなくなったので、だいぶ減りましたけど。

【事務局】

そうですね。この見せ方については検討したいと思います。ただ、市民の目線になると、一番注目しやすくて、とっつきやすい部分だと思いました。

【松島会長】

座談会の意見でもあった石狩はすごいぞっていうのを感じたいっていうのが結構あると。例えば、全然見つからないものが石狩では見つかっているとか、ここに出ていないですけど、アカダマスッポンタケは珍しいきのこだと思うので、入れても良いかなと思います。

【事務局】

イソスミレもそうですね。シロマダラの話が出ましたが、アカモズがたくさんいるのは厚田区なので、厚田の方も注目する仕掛けづくりができると良いですね。

【長谷川委員】

安細委員がおっしゃったように、浜益とか厚田が印象付ける為にこの並びは、一理あると思うんですけど。個人的には地域性を出すのは、別の部分でもできるかなと思っています。リストもどうつけるかですけど。この文章説明でというよりは、珍しいものがあるのだとか、貴重な自然があるということであれば、写真を並べても良いので。バランス的に植物とかも。一般的なイメージすると哺乳類・鳥類とか爬虫類両生類・魚類・植物・樹

木とかキノコとかでももちろんいいと思います。生物多様性戦略なので、多様性を見せられるように分類群をまたがるような形の写真を並べて、名前だけつけておくぐらいでもいいような気がしますね。

【松島会長】

ありがとうございます。

【長谷川委員】

全体的な感想なのですが、スッキリはしてきていると思いますけど、要素として、全体的に抜けてしまっているなど感じるのが景観の説明がないなって思います。湿地とか、森林がこういうところに広がっていると、その景観に対しての生物多様性を保全しますということが全般的に薄いのかなと感じました

例えば浜益とかはやっぱ里山景観として非常にいい環境が残っていると、あと浜益から厚田にかけては、大きな森林が広がっていると、かみみたいな話を地域の特色を説明しながら北側の方の豊かな自然を説明する。あるいは取り組みを、しっかり書くってというような見方が必要じゃないかなと。印象として、感じました。

【松島会長】

環境白書と重なる部分もあるかもしれませんが、レビューしておいて、具体的な保全策をどうするかという戦略の方に入っていくという流れは大事かもしれません。例えばそれを浜益区・厚田区、旧石狩町のエリアで、旧石狩市域は田畑が多いでしょうし、厚田浜益は森や山が多いという景観の違いみたいなのが、多様性としても出てくると良いと思います。

多様性の点では先ほどの写真で植物とか注目書を出すのはすごくいいですね。多様性をビジュアルで、もう少しアピールするという点でも。

あと、40 ページにリストのところで、足しても良いのではという話ですけども。文章の中に先ほど出てきた種だけじゃなくて、写真で多様性をアピールしてもいいかなと思いました。

【事務局】

ありがとうございます。確かに言われてみたら、ピンポイントに、種について明記してあって、その次の施策で繋げやすい形で書いています。全体的な説明が、薄くなったかもしれません。国有林があるとか、欠けているような印象になっているので見直してみます。

【赤坂委員】

石狩市内の 73%が森林で、その 8 割が国有林です。民有林は約 2 割。冒頭で長谷川さんが南側の情報は結構あるのだけでも北の方がない。国有林がおそらく北の方にびっちり広がっていると思うので、国有林サイドがどういう情報を持っているのかということも含めて、自然環境情報を増やしていくと、取り組みも良いと思います。森林だけではなく、湿原とかが一目でわかる何かがあると理解が非常に進みやすいと思いました。

【松島会長】

はい、ありがとうございます。国有林の情報というのはいかがですか。

【事務局】

所管がバラバラなので、その部分も整理しながら、データの共有をしてもらえそうだったら共有してもらいたいと思います。

【長谷川委員】

赤坂委員がおっしゃったように、豊かな森がたくさんあるということと、保護を進めていくには、例えば石狩では湿原が少なく、マクンベツ湿原や名前もない場所、河川沿いの環境を守るには、保護区・公園などに指定されていないところを今後どういった場所を OECM みたいに守っていくのかということがあまり書かれていない印象です。

国立公園、国有林とか希少な景観要素は生物多様性にとって重要なので、OECM として取り上げて守っていく具体的なことを書いて欲しいという気がします。

【松島会長】

景観のレッドデータみたいな感じでしょうか。

【長谷川委員】

厚田区の森林部分が広いので重要な部分もあるし、干潟とか海岸とか岩礁帯、里山とか石狩市は景観の多様性は売りだと思えます。アピールも必要だし、実際にそういうのを守れるような政策が必要だという気がします。

【松島会長】

ありがとうございました。いかがでしょう。

【赤坂委員】

OECM の話が出たので、事務局にお伺いしたいのですが、2000ha の市有林は今どういう状況になるのでしょうか。小面積で散在しているのか、それともある程度広い面積で管理されているのか、森林は針広混交林なのか、分かれば教えてください。

【事務局】

市有林を担当しているのが林業水産課という課なのですが、詳細データは環境課で詳しくは把握していません。

【赤坂委員】

OECM という考え方が出てきています。そういったものに市有林を率先して指定していただければと思います。

【事務局】

知っている限りだと市有林であっても、国の防風林になっていると、国有林の法律に基づいて保護されていると聞いています。OECM に該当しない場所もあるので、そこは整理させてもらいます。

【徳田委員】

23 ページの希少種ですが、注目種及び保全優占種の選定というふうには書いてあるんですけど、保全優占種って言うのが、特にこの後出てこないと思うのですが、新たに決める

ようなものとして書かれているのでしょうか。

【事務局】

表現の誤りです。注目種の中で保全優先順位の高いものはアクションプランを策定しません。

【安細委員】

先ほどの写真の話も含めて、いいなと思いました。3.2 のアカモズのところで、改めて現状として非常に人と近いところにおいて、危機的な状況にある種が石狩市に生息している、注目して保全していかないといけない種ということを詳しく触れても良いのかと思いました。具体的な場所は書けないかと思いますが、世界中でほとんどいない種が石狩市にいる、そういった生きものがある貴重な環境が湿地とか草原とかの環境にアカモズも絡んでくるのだと思います。一番アカモズについて早急に問題解決の必要がある種かと思うので、もう少しお知らせしてもいいかと思いました。

【松島会長】

例えばコラムみたいな形で、世界中のアカモズの半数ぐらいが石狩にいる調査データがあるということを、少しセンセーショナルに石狩が重要な生息環境に世界的に見てもなっているというアピールしても良いのではというご指摘ですよね。

【安細委員】

そうですね。それと、本当に貴重な環境っていうのが、実は身近なところで危機的な状況にあるところを発信してほしいです。

【松島会長】

ありがとうございます。アクションプランの必要性にも繋がられるということだと思います。このアカモズの写真、良いですね。

【事務局】

ありがとうございます。調査している方に、警戒していないアカモズの写真をいただきました。確かに市内回覧でアカモズの警戒鳴のコードつけて共有する取り組みをしているので、改めてかけはしの中でもアカモズの説明や、生息している草原と未熟な海岸林が残っている自然豊かな場所であることを表現したいと思います。

【松島会長】

残っているけども盤石じゃないというところを PR ですね。

【安細委員】

以前聞いた話だと、生振にもともといたけども、今は海岸林の僅かなところしかいなくなったって話だったと記憶しています。そういう意味では、もともと人に近いところに多分いたのでしょうか。

【事務局】

調査されている方にお話を聞く限りだと、昔はモズの中で、アカモズの割合が高く生息していたくらい普通の種だったと聞いています。気づいたら限られた場所にいる種になっ

てしまったと。もともと海岸だけにいた種ではなくて、生振とか、札幌でも記録があるので適していた場所が多かったのかもしれませんが、今残されたのが石狩浜だと思っています。札幌市の生物多様性地域戦略の方にもアカモズを取り上げてもらって、両市で何かできないかっていうのを相談しているの、改めてこの部分でアカモズや環境について PR できたらと思いました。

【安細委員】

私は過去のアカモズのことには分からないのですが、現状で生息繁殖地になっているところ、名無沼・カシワ林・小さな湿地とかのバランスで残っている可能性があるのかなと感じています。そういう意味でヒキガエルを含めて小湿地など気をつけなきゃいけないと思います。

【立木委員】

保全のところ、タンチョウのことは現状ではないのでここに書く必要はないだろうなって感じがしていました。野生動物との軋轢で考えると、僕が関わっていることで圧倒的に多いのは、シカの交通事故だろうなと思っています。一言言うならば、アライグマのことをここに書いたほうがいいだろうと思っています。厚田の方とかでも増えていると感じますし、軋轢があると思いますので書いた方がいいかと。その他の場合、外来種のこと書いてもいいのかなと思ったりもしました。

それから流行りじゃないですけど、調査していてカラスが森の中で死んでいるのを、今年度か見ました。今、こういうご時世なので、おっと思うことがありました。例えば、それをどこに通報したらいいのか、通報すべきなのかどうなのかも一般の方にはわからない。鳥インフルエンザというキーワードを入れるかどうかわかりませんが、そうした異変が起きた時に、通報できるシステムを作るとかで、体制を構築するとか、必要なと思いました。5.4 の軋轢緩和の体制の強化というところがモニタリングもかなり重要で、定期的にシカの数も含めてですけど、交通事故の件数を警察とか、ほかの機関から情報収集するとかいうことも大切だと思いますし、研究発表会じゃないですけども、最新の状況がどうなっているとか、1年間で気づくことがどういうことがあったとか、そういったものを担当の人を含めてお話するよう機会・体制を含めて、野生動物の管理は体制の問題なので、いつまでに構築するみたいなことが書ければいいなというふうに思いました。

この中の話の中で、餌づけや距離のことが結構書かれていて、やや気になりましたが、石狩では餌づけが問題になっているのでしょうか。

【事務局】

個人的な感覚ですが、カラスやキツネの餌付けが年々増えているし、ケンカをしている姿を見るのも日常です。あとはキツネが学校の裏とかにエサを学校の畑に隠して困っているという話を聞きます。後は防風林のところで、写真を撮りたいがために餌付けをしていることも聞いています。その防風林にはオジロワシが営巣しており、エゾサンショウも生息しています。餌付けが、今後アライグマを呼び寄せることもあるでしょうし、二

次被害じゃないですけど、可能性として考えられると認識しています。近隣住民への回覧や現地パトロールを防風林で何か所かしています。

【立木委員】

複数個所に書いてあるので、問題になっているかと思ったのですが、普及啓発のイベントを実際にやっていくとかいうことが大切かなと思いました。

【長谷川委員】

餌付けについて、書き方というか、注意しないといけないのは、餌付けという行為自体が軋轢になることもあると思います。餌付けしたい住民としない住民の間などで。しかし、餌づけ自体はアプローチというか行為であって、野生動物との軋轢に上げていくとすると人への危害とか、ヒグマ・カラスがゴミを荒らすとか、交通事故を誘発するが想定されます。あとは共通感染症とか。人的な被害とか健康被害、農業被害が軋轢だと思います。人間活動への軋轢を緩和するとか、生じさせないために餌付けはやめたほうがいいという話であって、餌付けをすることが生態系の影響っていうことであれば、社会との軋轢とはまた別の話かと思います。整理して、軋轢として何を想定しているのか、鳥インフルとか、人間の健康や人的被害、産業被害を想定し、情報収集したり解決する必要がある対策のひとつが余計な餌付けはしないという書き方になると思います。内容を整理して、注意して書き分けた方がいいと思います。鳥に餌付けをして写真を撮ることが本当に問題なのであれば、希少種保全に、別の理由で餌付けはダメだと書くべきだと思います。そのあたりの整理が必要かなと言うふうに思います。

【立木委員】

僕がこれを書くならば、影響が人間に出るかというのでいうと、長谷川委員が言われた共通感染症のところで、ダニやエキノコックスの話を書いて、ある程度の線引きが必要であることを3.4で書いておくと良いかと思います。

【事務局】

確かに言われてみると、餌付けというのは一つの問題ではなく、アプローチの方法によって、色々違う解釈をされることもあるので、見直しています。市民の方により密接な問題である場所な気がするので、動物との軋轢ってというのは、ヒグマとかタンチョウ、餌づけを含め整理したいと思います。

【赤坂委員】

2.3 について、石狩市の人々と自然の関係で、先住民族の記載があってもいいのかなというのが一つ目です。もう一つは、石狩市の自然環境調査業務委託報告書で自然資源に関する歴史文化資料調査の事例等々が書かれている中でも、アイヌの方々の記述を使って、コラムを紹介してもいいのかなと思ったりしました。ニホンカワウソが生息していたことが分かる記述は報告書の中では浜益川の上流で捕獲した、1850年代はハマシケ場所の産物リストにニホンカワウソの皮がリストにあったとの記述もあります。ツルも越冬のためへ南に向ったとか、あるいは北に行ったとか、結構面白い記述があるので紹介するような

コラムを書いていただければというお願いです。

【松島会長】

ここはまだなんかページにも余裕がありそうなので、よろしくお願ひしたいところですね。

【事務局】

事務局でも、その点について希薄だと思ひ、情報を入れたいという話をしていたので、入れられるところに入れてきたいなと思ひます。ポイヤウンペとか、クトゥネシリカとか、そういう話とか、砂丘の風資料館には学芸員さんもいるので、お話を聞きながら入れたいと思ひます。

【松島会長】

テンキの話もあってもいいかもしれませんね。

【安細委員】

先ほど赤坂委員もおっしゃっていましたけど、石狩市さんが具体的に OECM でイメージされている場所があるのかと、市民、土地を持ってらっしゃる方になるでしょうけども、協力してくれそうな人がいらっしゃるのでしょうか。オオムラサキの生息地になっている民地も将来的には OECM になる可能性があるのかなと思ひました。

【事務局】

OECM を考えた当初は、石狩浜海浜植物等保護地区の周辺地域をまとめて、名無沼も保護地区の横の砂丘と合わせて OECM に追加できないかと考えていました。

オオムラサキは民地に多数いたりするので、今後視野を広げていけたらなと思ひます。ただ、現状分からない場所があるので、OECM になり得る場所から調べるのが第一段階と考えています。聚富地区にも湿地や自然が残っていますけど、本当にごく一部しか保護区ではないので、広げていけたらなと考えておりました。

【松島会長】

ありがとうございます。OECM に関しては、環境省が自然共生サイトという言葉を使っているので、合わせたほうがいいかもしれないですね。自然共生サイトの説明で欄外に OECM の説明を書いておくと良いかもしれません。

【長谷川委員】

自然共生サイトは、要するに環境省が定義していくもので、日本の OECM です。OECM 自体が国や地域によって、地域固有の市町村レベルで定義した OECM も出てくるかもしれないです。環境省が進めているのは自然共生サイトということで、そこにはルールを入れるっていう定義ができてくるのでそっちに合わせると自然共生サイトがあっているかもしれません。

【事務局】

確か4月からスタートする方向で環境省はいますよね。

【松島会長】

現在だと、インセンティブとか、大きな企業とか入ってくれるのかなと思っています。

【長谷川委員】

第2回目の選定をして内容を徐々に明確にしているところです。

【松島会長】

そういった意味では OECM の方が良いのかな。

【事務局】

どうなのでしょう。環境省としては、自然共生サイトを増やしたいのでしょうか。まだ、細かいところや、時間があるので、OECM がまだ決定事項ではないので、いろいろ動きを見ながら考えていきたいと思います。

【長谷川委員】

OECM を考える上でも、赤坂委員がおっしゃられていた歴史の話も重要になってくると思います。そういう意味でも 2.3 石狩市の人々と自然の関係のところ、歴史の話とかアイヌの話が入って、3.5 自然資源・地域資源で産業なので、農林水産業、レクリエーションについてもお金を生み出さないけれど資源利用だと思います。観光につながる場合も、つながらなくても、自然の恩恵を受けて楽しむことは大事ですし、歴史も絡めて、石狩市には自然から恩恵を受けていくんだっていうことを表記しておく方が良いかと思います。歴史や文化についても OECM の候補対象にもなってくるので連携するように増やしていくのがいいのかなと思います。

もう1つ、5.5 についてですが、生物多様性の保全って地域性が大事だと思うので市にいる希少な生き物とか、軋轢とか、地域とかの生物多様性を守っていくというのが重要だけれど、石狩市に限った話ではないグローバルな地球温暖化とか、プラスチック問題とか石狩市だけでは解決できないけれど、石狩市も生物多様性のためにやらねばならない内容がこの章に来ると思っています。今の書き方だと生物多様性保全なのかどうなのか分かりにくいと思います。ゴミの処分や削減をどうするか自体は大事だと思いますけど、生物多様性保全の計画なので、生物多様性の保全に必要な書き方をするというのが大事かなと思います。

3.6 は温暖化課題がありますが、5.6 で石狩市民が生物多様性保全のために温暖化対策に務める。この計画の中では主人公は生物多様性の保全。地球温暖化とか気候変動は生物多様性にとってもかなり、大きな問題なので石狩市民はあるは、石狩市は生物多様性保全の目的のために、気候変動対策に取り組むと書かないといけないと思います。その一環が再生可能エネルギーの導入ですよね。導入の側面で生物多様性保全にリスクをもたらすので留意しないとイケない。ということで、生物多様性の脅威である温暖化対策をまず進めるということがあって、そのためにゴミを減らすとか、自然再生可能エネルギーを導入するけれども配慮する、生物多様性に影響は出さないって言うことを書くのが良いのかと思います。リサイクルについても、ここでは生物への影響ということだと思うので、海へのプ

プラスチックの流出を減らすとか、生物多様性保全を意識したプラスチック対策をもうちょっと書いた方が、他の環境系の計画との差別化もできるし、具体的になるのかなと思います。

【事務局】

説明文章が他は上部にあります。5.6 はないので先ほどのご意見を参考に修正したいと思います。

【松島会長】

5.6 にあるグリーンインフラとか Eco-DRR の話は、5.5 自然資源・地域資源の活用のほうでもいいかもしれないなど。もう少し考えましょう。

【事務局】

すみません。事務局からの確認です。地球温暖化対策に努めるということが大前提としてあり、地球温暖化対策推進計画に再エネの導入がうたわれているので、それを前提としながらも、導入にあたっては生物多様性との調和を図るという内容の導入であるべきという考え方を示すという書きぶりが望ましいということでしょうか。

【長谷川委員】

圧倒的に再エネによる生物多様性への影響は大きいので、できるだけやめて欲しいと思っています。温暖化対策だからといって、再生可能エネルギーを強く押し出してほしくないという個人的には思っていますが、話の流れとしてそうは言っても、気候変動問題って生物多様性にとってかなり大きな脅威なので、まず初めに CO2 削減の取り組みを生物多様性保全のために取り組むことが先にあって、再生可能エネルギーの導入等も小さく入れてもらう。今ここにある再生可能エネルギー導入における配慮については、もっと比重を持って書いてほしいという言う気はします。気候変動対策自体が抜けていると思うので。省エネとかでも、ごみの減量化も含めて、一般的に言われている家庭でできることも含めて CO2 削減を進める事を前段として書いてほしいという意味です。

【事務局】

再エネ導入と生物多様性の調和っていうところに、温暖化対策の省エネ行動が生物多様性の保全にもつながると書き方でも、ここはいいような感じですか

【長谷川委員】

章や項目立てをすると、4R が一番上にありますが、先に気候変動対策が来て、CO2 削減の取り組みってということが書いてあればいいと思います。

2番目が4Rの話になるのか、再エネの話になるのか、順番は書きぶりだと思いますけれども、2番目の再生可能エネルギー導入における配慮ってこれはちゃんと項目立てて欲しいと思います。今の石狩の中で、大きな問題だと思うので。今後、太陽光の話も出てくるし、再生可能エネルギー導入は生物多様性に大きな影響となるというのは、もうちゃんと一つのパートで書いておいてほしい。

すべきじゃないかなということ。事務局いかがでしょうか。

【事務局】

現状の文章では生物多様性のために地球温暖化を対策が必要なのか、市民を含めて対策していくかっていう部分を絡めた書きぶりが必要かと思います。海岸線が長く、川も持っているので再エネの導入のポテンシャルも高いけれど、裏面も色々あること。生物多様性に影響がある、だから考えないといけない部分が確かに少ないので、そこは考えて入れたほうがよいということですよ。

【長谷川委員】

他にある行政計画を紹介、関わっているという部分は今どう表現していましたか。

【事務局】

森林関係の法律が抜けている部分がありますけど、国と道と市っていうので、関係部署ごとに法律や計画をまとめています。法律に基づいた計画、方針なども横につけています。

【長谷川委員】

中身をどう引っ張るか分かりませんが、ゴミ処理基本計画に則ってゴミ処理をしますと、書くのは構わないと思いますが、具体性はないのかという気はします。

【事務局】

この文章に関して言うと、生物多様性のためにという部分が抜けているので、そこを補間したり、文章にしたりっていう意味なので、法律云々とかっていうのはありますが、それはっていうことですよ。

【長谷川委員】

取り組みの仕方とかですね。その処理の仕方とか、計画とか法律とかに則れば良いと思いますけどね。

【松島会長】

現状問題として 3.6 のところで、気候変動対策が、生物多様性には重要になるっていう指摘が書かれているので、気候変動対策をすることが生物多様性保全を目的に書いてあれば良いと感じます。

【長谷川委員】

繰り返しになると無駄になりますけど、松島会長のおっしゃるように 3.6 と 5.6 は反対の関係だと思います。こういう問題があるから、こういう対策を取るっていうことなので、おっしゃる通り、そこをうまく対応してかければ良いと思います。

【松島会長】

その点では、再生可能エネルギー導入における配慮っていうのは結構重要だと思っています。再生可能エネルギー自体は温暖化対策とか気候変動対策に有望な取り組みだとみなされているけれども、これ自体がトレードオフで生態系にも影響を与えることがあるっていうところは、ここにきちんと書いておいた方が良いと思います。温暖化対策＝生物多様性保全にも繋がると言いつつ、実際やってみると問題も起こってくることを、きちんと指摘しておくということが大事ではというご意見ですよ。

【長谷川委員】

そうです。3.6の方にも現状と課題の温暖化対策の為に再生可能エネルギーの導入を進めているけれども大きな影響があるみたいなところを、強調して表記し、5.6でそこには配慮するという施策を書いてみる必要があるかと思います。全体のバランスもそうですが。

【事務局】

3.6と5.6の並びが廃棄物・地球温暖化と逆になっているのでそろえて、現状風車のこともあるので検討させていただきます。

【松島会長】

よろしく願います。すみません。やっていただくことが多いですけども。2時間経ちますので、いかがでしょうか。このあたりでまた何かあれば。他にありましたらメール等でお知らせいただければと思いますが、何かあのぜひ発言しておきたいことがございましたら。

【事務局】

見た目の問題ですけども、P19とP20なのですが、A3横長とA41枚の部分があります。皆さんの見やすさ的にはどっちがよろしいでしょうか。

【松島会長】

僕はA4で良いと思います。

【徳田委員】

縦で良いかと思います。

【安細委員】

縦が見やすいです。

【事務局】

ありがとうございます。縦で揃える形に体裁を整えと思います。

もう一点ご相談なのですが、P9の成り立ちの部分ですけど、縄文海進とか、地形的な成り立ちを書く必要があるかという点についてお伺いしたいです。現在が石狩市の合併で市という成り立ちを書いてあります。地理的な所から書いた方が良いのかという疑問があり、皆さんに率直にご意見を伺いたいなと思っておりました。ただ、南側の話が多くなるのかなという印象も持っています。

【長谷川委員】

どういった文章になるのでしょうか。

【事務局】

地理的にどういう風なでき方をしたのか、石狩川は昔長かった話とか、昔と今の自然の変わり方とか、そういった情報があつたほうが良いのでしょうか。

【長谷川委員】

それが保全の取り組みにつながる自然再生事業をしていて、昔の姿に戻そうとしている

みたいなのがあれば、出しても良い気がしますけど。必ずしも必要な情報でもない気がしますけどね。赤坂委員のご意見のような、社会とか文化の方が、好きな人が多いし、活かしようがある気がします。

こういう風に開発されてしまったとか、どんどんなくなってしまったみたいな成り立ちは、あってもいいかもしれません。

【立木委員】

2.1あたりで、ちょっとは触れてもいいと思います。言われたかもしれないですけど、気象条件の話とかは別に言ってもいいのかなと思っています。冬はどうか夏はどうだとか、バックグラウンドで話しておくのはいいのかなと思ったりもしました。そんなにディープに触れなくてもいいのかなと思います。

【松島会長】

自然要素の割合とか、環境白書を参考にするようなイメージで書いていただくといいです。もう少し具体的に、長谷川委員がおっしゃったような湿地がどれぐらい残っているとか。

【事務局】

環境白書に書いてあるからと言って、地域戦略を読む人が白書を見るっていうのは限らないかなと思っています。気候とか、ここでは抜けているので、基礎情報として入れたい方がよいのかなと思いました。

【松島会長】

むしろそれはあった方がいいのではと思います。

【事務局】

白書から抜くことになりましたが、追加します。

【長谷川委員】

ついでに僕は1.1長いと思うのですが。一生懸命書いてくれています、いきなり難しいって思いました。一生懸命書いてもらって申し訳ないですが、この辺の情報は石狩市じゃなくても書けるっていう気もします。国際的にこういうサミットがあって、cop10で云々、モントリオールの条例がみたいな。大事な背景ですけど、もう少しざっくりというか、石狩市が生物多様性計画を策定しないといけない裏づけみたいなものが書いてあればと思います。2章はやっぱり石狩市にしか書けない、石狩市の計画でしか読めないみたいな内容がたくさんある方が、読みがいがある気がします。

【事務局】

この部分も悩みどころです。札幌市は、背景として書きましたみたいな感じでした。最初からつまずいてちゃう人も中にはいる気はしています。

【長谷川】

背景を読み飛ばしそうな気がします。全体的に詳しいので、そこも含めて肝心なところを読み飛ばしそうな気がする、もう少し簡潔、あるいは別の項目立てでもいいのかな

と思いました。

【松島会長】

圧縮できそうですね。例えば 87 から 89 にかけて、次期国家戦略のことだけでも。多分省略しちゃっていいと思います。少しずつ削っていくと結構圧縮と思います。

【事務局】

結局この難しい単語を説明するページになってしまって、しっかり来ていませんでした。見直します。

【立木委員】

来年度、研究室で 3 人、石狩で卒業論文をやろうとしています。はまなすの丘公園にシカがいるか、夏場に食害が出ているかとか。シカだけじゃなくてほかの動物を含めて、どんな種がいるか調べるの学生がひとり。冬場はネズミの被害が多いように感じていて、ハマナスよりも、ヤナギっぽい木で見られました。ネズミが多いのかななんて思いました。

防風林でカメラ調査も継続してやって、また別の学生が防風林の評価にネズミがいるかを調べる学生と、石狩市内の市街地の中での交通事故が防風林や緑地とどのような位置的な関係があるかみたいなことを、警察からデータを集めて、解析をしたり、現地に行ったりをやる学生が付きます。

気づくことがありましたらお伝えしますし、石狩市の皆様にはご相談をさせていただければいいなというふうに思っています。よろしくをお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。

この時期の食痕の多くはアキグミが食べられていると思います。この間、名無沼に行ったら向かいの保護区にシカの足跡があって、食痕とか砂を掘っている痕跡を探したのですが、私でも見つけられなかったです。

【立木委員】

ウサギも結構いるのではと思ってみえています。

【事務局】

ウサギは見たことないです。松島会長はありますか。

【松島会長】

1 回だけ、聚富の方だったか、見た記憶はありますけど。でも滅多に見ないですね。

【事務局】

地元の方の噂ですけど、キツネが増えたからウサギがいなくなったって聞いたことがあります。

【立木委員】

分かりました。

【松島会長】

よろしくをお願いします。はい、そうしましたら、今回は終わりたいと思います。事務局

の方、よろしくお願いいたします。

【事務局】

長時間に渡りご審議賜りましてありがとうございました。

本日の議事録につきましては、会長に確認後、各委員にお配りしたいと存じます。

次回については、本日いただいた意見を踏まえ、骨子を修正させていただきます。次回にはまたご意見伺えるような形にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これで第3回意見交換会を終了いたします。

ありがとうございました。各自ご退出よろしくお願いいたします。

令和5年3月31日

いしかり生きものかけはし有識者意見交換会

会長

美谷川 理